

# スポーツ少年団への支援は？

教育委員長

65万円を助成している

【大杖】2020年東京オリンピック開催が決定した。この機会に、本町もスポーツの振興、チーム・選手の強化に



大杖 正彦 議員



オリンピック選手をめざして

力を入れるべきだ。少子化で団員数が減少する中、スポーツ少年団活動への支援は。【教育委員長】本町には、現在14のスポーツ少年団、260人の子どもたちが67人の指導者のもと活動中である。町はこれらの少年団に、活動支援・認定指

導者の資格取得助成や登録料負担・町外チームを招いた交流大会への助成など、本年度は65万円の助成をしている。【大山町スポーツ少年団】が生涯スポーツの優良団体として、文部科学省から表彰される。

## 利益の配分と余剰金は？

町長

中の原スキー場の配分だけ

【大杖】指定管理者制度の目的と課題は。

【町長】現在、町内8カ所の公の施設を一般社団法人や民間業者に運営業務を委託し、指定管理料を払っている。民間の活力を生かしたサービス向上と町予算の削減が目的である。過疎化で利用者数が計画どおり確保できないことが課題である。

【大杖】利益配分・余剰金と、それにもなう指定管理料の見直しは。

【町長】唯一、中の原スキー場が利益を出しており、町への利益の配分は3割以上（平成24年度は35%）である。

ほかの施設は利益・余剰金は出ておらず、指

定管理料の変更は考えていない。



大山のスキー場開き(中の原スキー場)